

これで安心！「学習評価」に役立つポイントリスト ～令和2年度版～



このリストは、現行の4観点の学習評価に対応したものです。感染症対策を実施しながら「指導」と「評価」の取組が適正に行えているかどうか、このリストを基に確認することができます。
なお、新学習指導要領を踏まえた評価については、「参考資料No.26」小学校編を参考にしてください。

観点	ポイントとなる項目	あるある落とし穴
音楽への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> □ 「箏の音色の変化の多彩さ」「音のつながり方を生かした旋律づくり」など、題材として取り上げたものへの関心を高める指導をしている。 □ 「箏の音色の変化の多彩さ」「音のつながり方を生かした旋律づくり」など、題材として取り上げたものへの関心の高まりを評価している。 □ ワークシート等への記述や、表情、発言などの行動観察から、関心の高まりを見取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 発表や忘れ物の回数、提出物の有無を評価対象にしている。 ◆ 記録に残さず、<u>印象を基に評価</u>している。
音楽表現の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> □ 〔共通事項〕をよりどころとして、生徒が表現の工夫を見いだしていくことができる指導をしている。 □ 生徒の思いや意図（どのように表現するか）の変容を評価している。 □ ワークシート等への記述や、表情、発言などの行動観察から、思いや意図の変容を見取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 知覚したことと感受したこととの関わりを<u>自覚させる場面</u>がない。 ◆ <u>実技テスト</u>だけで評価している。
音楽表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> □ 技能が、生徒にとって思いや意図を表すために必要なものとなるよう指導をしている。 □ 創意工夫を生かした表現で歌う（演奏する）ために必要な技能が身に付いているかを評価している。 □ 生徒が自分なりのイメージを表現しようとすることができるように、演奏を試行錯誤する場面を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 教師の思いや意図に沿った表現を押し付けてしまう。 ◆ <u>技術の高さ</u>だけを評価対象にしている。 ◆ 指導しなくても身に付いていること（声のよさ、楽譜が読める等）を評価対象にしている。
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> □ 初発の感想に留まることなく、習得した知識を踏まえて聴き返し、その音楽の内容を価値あるものとして確認するような、深まりのある指導をしている。 □ 生徒が、知覚したことと感受したこととの関わりを考える場面や、自分にとってどのような価値があるのかといった評価を明らかにするような場面を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>明確な視点</u>がなく<u>漠然と書いた感想文</u>を評価対象にしている。 ◆ 国語科等で身に付けた<u>書く力</u>を評価対象にしている。

対策

♪ 書画カメラでワークシートを映して考えを発表したり、ICTを活用して意見交流したりすることも考えられます。

対策

♪ 別室で演奏したり ICT に記録したりしたものを評価対象にする場合でも、「生徒の思いや意図に沿った表現に必要な技能」を評価していれば、適切な評価だと言えます。